

キャンパスマップ Campus map



アクセス Access

■ 交通アクセス

ルート	所要時間
西鉄天神バスターミナル → 新飯塚駅	約6分
福岡空港 → 新飯塚駅	約17分
JR博多駅 → 新飯塚駅	約5分
JR小倉駅 → 新飯塚駅	約80分
新飯塚駅 → 飯塚バスターミナル	徒歩5分
飯塚バスターミナル → 二瀬交流センター前	7分
二瀬交流センター前 → 九州工大飯塚キャンパス正門前	2分
九州工大飯塚キャンパス正門前 → 飯塚バスターミナル	徒歩1分
飯塚バスターミナル → 飯塚駅	9分
飯塚駅 → 飯塚バスターミナル	スクールバス約14分

■ 西鉄特急バスによる飯塚キャンパス構内の運行
福岡(天神)～八木山バイパス～飯塚バスターミナル～飯塚キャンパス構内を運行しています。

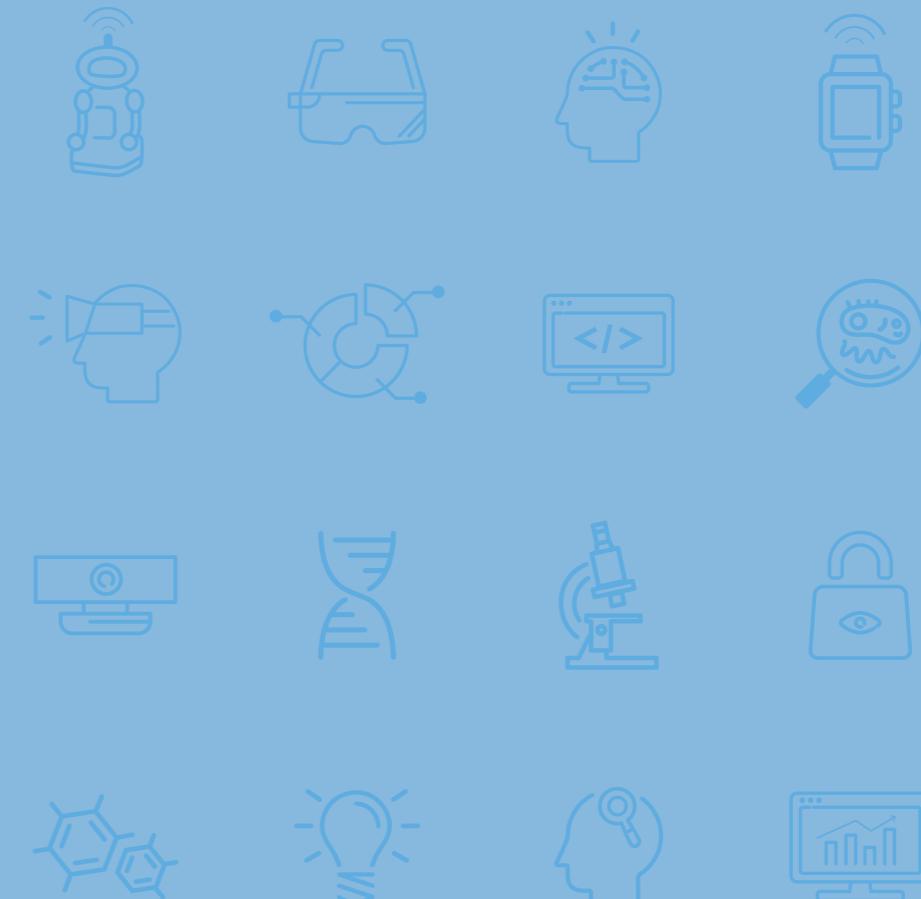
飯塚キャンパス行スクールバスの運行
平日の8時～21時まで、主に始業・終業に合わせて10～45分間隔で運行しています。(ただし授業期間外は減便運行)
詳細は、
http://www.iizuka.kyutech.ac.jp/school_bus/ を参照。

■ 主要な場所からのアクセス時間

出発地	到着地	所要時間
JR小倉駅	JR博多駅	約95分
JR小倉駅	天神BC	約70分
北九州空港	JR博多駅	約95分
北九州空港	天神BC	約70分

※アクセス時間はおよその目安です。公共交通機関は乗り継ぎの時間を考慮し、余裕をもってお出かけください。

大学院情報工学府 進学ガイド



国立大学法人 九州工業大学

情報工学府の概要



01 博士前期課程 情報創成工学専攻

最新の情報技術を原動力として、産業界や社会の諸問題を解決するための知識や技術を修得し、社会のニーズに基づく産学社連携を推進し、情報技術で社会を駆動させていく能力を有する人材を養成する。

02 博士後期課程 情報創成工学専攻

博士前期課程の素養と能力に加え、最先端の情報工学を総合的に取り扱う素養をもち、自立して高度で革新的な情報システムを構築する能力を身につけ、情報社会を牽引するリーダーとして、産業界や社会での課題の発見と解決を導き、産学社からのニーズに応える人材を養成する。

教育研究上の目的

01 博士前期課程 情報創成工学専攻

社会の変化に伴い生じる課題に対し、最新の情報技術を原動力として、産業界の諸問題の解決を図るために知識を備え、社会のニーズに基づく産学連携を推進し、情報技術で社会を駆動させていく能力を有する人材を養成する。

02 博士後期課程 情報創成工学専攻

情報工学の高い専門性に基づいた先端的な基盤技術の開発を目指し、様々な分野の境界領域で発生する新しい課題に対処する革新的な情報システムを構築することにより、情報技術の発展に貢献し、情報社会を牽引するグローバルリーダーとなる人材を養成する。



大学院教育を担う教員は、最新の情報技術を活用し、実社会のニーズに基づいた実務指向な研究・開発や問題解決能力や協同作業への適応能力を涵養するプロジェクトベースの研究・開発に取り組んでいます。

分野名	分野の内容
知能情報 工学専門分野 	<p>人が考へて操作するだけではなく、人が考へることをサポートするような、「知的」な情報システムの実現を目指す知能情報分野。</p> <p>ことば、音声、映像などのさまざまなメディアを介して、あたかも人が考へているかのように振る舞い、また、人が思いもよらないことを産み出すような、「人とコンピュータが協調する」ための新しい情報技術の確立を目指しています。</p> <p>そのために知能情報分野では、コンピュータ・サイエンス領域の研究に加えて、ビッグデータの解析に代表される大量のデータから規則や知識を発見・創出する「データ科学」、人工知能に関する基礎から応用までを研究する「人工知能」、メディアの認識・理解・表現について研究する「メディア情報学」という3つの専門分野で研究を進めています。</p>
情報・通信 工学専門分野 	<p>人や物が情報を介して相互に連携し協調するための高度なICT(情報通信技術)の利活用は、現代社会では必要不可欠となっています。そのような「次世代スマート社会の実現」を支えるために、情報・通信工学専門分野では、ハードウェアとソフトウェアのコンピュータ技術と情報通信技術を身につけた高度ICT人材の育成を目指します。</p> <p>そのために、セキュリティやクラウド、組込みシステム技術を基にさまざまな情報システムを開発する「ソフトウェアデザイン」、コンピュータやモバイルネットワークでの有線・無線技術や通信・ネットワーク技術を身につける「情報通信ネットワーク」、コンピュータの心臓部をなすLSI(大規模集積回路)の設計・開発やこれらを活用したシステムを設計・開発する「コンピュータ工学」という3つのコースを設けています。</p> <p>コンピュータと通信を深く理解することで、大学院修了後は、総合的な情報システムを設計・開発・運用する能力を身につけた、ICT社会を主導するICTプロフェッショナルとしての活躍が期待されます。</p>
知的システム 工学専門分野 	<p>社会が抱えているさまざまな問題に対して、人と未来を繋ぐ新しいシステムの実現のために、情報工学とロボット技術、システム制御技術、機械工学をそれぞれ融合した、知的システムを構築できる人材の育成を目指しています。</p> <p>そのため、高度なロボットの応用技術とICT基盤技術を統合・包括する「ロボティクス」、高い性能と品質が求められる分野におけるシステム制御を理論から応用まで研究する「システム制御」、マイクロ/ナノ技術や3Dデザインを基盤とする高度な機械・情報工学を研究する「先進機械」の3コースを設けています。</p>
物理情報 工学専門分野 	<p>情報工学の進展により、産業のみならず生活の利便性も大きく向上しました。より便利かつ快適な社会の実現に向けて、さまざまな工学的課題が挙げられます。物理情報工学専門分野では、自然界の普遍的な法則を探求する自然科学と、情報・システム技術としての情報工学を融合した教育と研究を通じて、それら課題を解決するとともに、技術革新(イノベーション)につなげる融合領域研究を切り拓くことができる技術者の育成に力を入れています。</p> <p>そのため物理情報工学専門分野では、物理学、電子工学、情報工学を駆使し、情報化社会の持続的進展を支える新しい技術を生み出す「電子物理コース」と、物理学、生物学、情報工学を駆使し、学際領域の新たな技術を生み出す「生物物理コース」を設けています。</p> <p>博士前期課程修了後は、博士後期課程に進学するほか、情報通信産業、総合電機、環境・エネルギー、自動車、精密機器、ナノテクノロジー、材料・素材、音響、医薬品、食品、化粧品などの幅広い分野で、イノベーションを創出する技術者としての活躍が期待されます。</p>
生命化学情報 工学専門分野 	<p>医療、製薬、飲食、化学、環境、バイオ素材など幅広いバイオ分野に、情報工学の知識と技術を融合させることで、ヒトを含め幅広く生命に関わる新たな産業分野を構築できる人材の育成を目指します。これから「健康長寿社会」の基盤を支えるとともに、新産業を生み出す技術者・研究者として、バイオ分野の企業や研究機関において活躍が期待されます。そのため生命化学情報工学分野では、「分子生命工学コース」と「医用生命工学コース」の2つのコースを設けています。</p> <p>「分子生命工学コース」</p> <p>人体・脳・臓器から細胞・生体高分子までを対象とする生物学分野ならびに有機化学分野の研究・開発と、バイオテクノロジーを始めとするバイオ分野への工学的応用を指向した研究・開発を行い、主としてそれらに関連する科目群を学びます。</p> <p>「医用生命工学コース」</p> <p>生命科学、有機化学・工学の知識に基づく高度な医療ならびに創薬等への応用を指向した先端的システムの研究・開発と、バイオインフォマティクス・ケモインフォマティクスやゲノミクス、システム生物学等の学際分野における研究・開発を行い、主としてそれらに関連する科目群を学びます。</p>

■ 博士前期課程の履修課程

情報創成工学専攻（博士前期課程）		
基礎科目	情報工学プログラム (数理・データサイエンス・AI)	6単位
対象分野 科目	専門深化プログラム ひとつ以上のコースを選択	11単位 (演習1単位以上を含む)
	GEプログラム 講究&実験演習 上級語学&上級グローバル教養 &大学院国際協働演習	4単位 (2単位&2単位) 4単位
	指導型演習	2単位
	社会駆動プログラム ひとつ以上のコースを選択	6単位
イミグラント 科目 (要認定)	情報工学導入プログラム (情報を専門としない学部卒業者や社会人が対象)	情報工学府が指定する 8単位 (入学時に判定)
修了要件 ※1	単位	33単位以上
	判定	修士論文
GE認定 要件	GEコース	修士修了 +TOEIC600点以上

※1 修士(情報工学)は修士論文または課題研究に合格することが必要 ※2 課題研究は調査報告やプロジェクト研究に相当

■ 博士後期課程の履修課程

情報創成工学専攻（博士後期課程）		
基礎科目	情報工学プログラム (数理・データサイエンス・AI)	2単位
対象分野 科目	GEプログラム 特別講究&特別実験演習 上級語学&上級グローバル教養 &大学院国際協働演習	4単位 (2単位&2単位) 2単位
	副専攻科目	2単位
	修了要件	10単位以上
	判定	博士論文

■ 革新的ロボティクス/AI技術を先導する人材育成コース



ロボティクスや人工知能を活用してロボットの生産・効率性を飛躍的に向上させる自律ロボットの開発を行い、地域企業が抱える課題解決に対応する技術の創出、地域産業の隆興となる革新的ロボティクス/AI技術(iART)の研究に留学生、日本人学生および地域企業と共に取り組み、iARTを地域や母国で先導できる人材を育成する。

02 プログラム一覧

専門深化プログラム

専門深化プログラムは、情報工学の専門分野もしくは情報工学と他分野の融合分野として、13コースで構成されており、それは母体となる情報工学部5学科13コースに対応するものとなっています。

コース名	コース内容
1 データ科学 コース	数理統計や人工知能などに基づいた、さまざまなデータから規則や知識を抽出するための手法を開発し、それらを効率化・高精度化・汎用化する能力を養い、データ科学に総合的に取り組むための専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
2 人工知能 コース	人の意図を理解し、知的活動を支え、人と対話する情報処理システムの開発を目指し、基礎となる問題解決・探索・知識表現・プランニング・推論・自然言語処理などの知識や学習・論理プログラムなどの専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
3 メディア 情報学コース	音声・画像・動画などさまざまなメディアを処理する知識や技術を身につけ、メディアの認識・理解、VR(バーチャルリアリティ)やAR(拡張現実)を用いた高度なユーザインターフェース、コンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンの応用技術を含む情報処理システムを開発するための専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
4 ソフトウェア デザインコース	さまざまな業務分野のエンタープライズ系情報システムや、それらを支える基幹システム、あるいは組込みシステムなどのハードウェアと直接関わるソフトウェアの開発のための専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
5 情報通信ネット ワークコース	多様な有線・無線通信を行う情報ネットワークや分散システムにおいて、各モデル階層（通信機能を階層構造に分割したモデル）の設計・実装・制御・分析に必要な技術を修得し、情報・通信機器、通信システム、ネットワークインフラ、総合的な情報システムの設計から開発・運用までの専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
6 コンピュータ 工学コース	コンピュータの動作原理を深く理解した上で、心臓部をなすLSIの設計・開発を学び、さらにそれらを応用した組込み機器やコンピュータシステムの設計・開発、コンピュータを利用した効率的な問題解決手段の開発法に関する専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
7 ロボティクス コース	ロボティクスに関して総合的に学び、それぞれをICT基盤技術と統合・包括する能力を養い、多様な分野でのロボティクスの応用に繋げるための専門的な知識・スキルを学ぶ。
8 システム 制御コース	制御工学と情報工学の知識と技術を身に着け、ロボット、メカトロニクス、自動車、電機・電力、生物システム、輸送システム、医療・福祉、エネルギー、環境などの分野で、特に高い性能と品質を求められるシステムの制御系設計・開発に関する専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
9 先進機械 コース	情報工学と機械工学をそれぞれ融合した次世代の先進機械システムを設計・構築するための専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
10 電子物理 コース	超伝導や半導体などのエレクトロニクス材料、光・レーザーシステム、電磁流体力学などの研究分野を中心に、物理・電子物理工学と情報工学を利活用して、新技術を生み出すために、物理学、電子物理工学、ナノテクノロジー、計測技術および情報工学分野の専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
11 生物物理 コース	生体分子（タンパク質、DNA）、高分子、液晶、生体膜などのソフトマターラ、それらで構成される生物・生命現象を理解し、応用するために、生物学、物理学、計測・可視化技術、数理モデルを基にしたシステムデザインにつながる専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
12 分子生命 工学コース	バイオ分野への工学的応用を指向し、情報システムや実験システムを構築するために、人体・脳・臓器から細胞・生体高分子まで対象とする生物学やバイオテクノロジー、情報システムを構築するための専門性の高い知識・スキルを学ぶ。
13 医用生命 工学コース	生命科学・医療への応用を指向したシステムを構築し、新産業を生み出すために、バイオインフォマティクス、ゲノム科学、システム生物学、医用システムに関する知識や実験技術、情報処理に関する専門性の高い知識・スキルを学ぶ。

社会駆動プログラム

(博士後期課程は「副専門科目」)

社会駆動プログラムは、変化の速い産業界や他の工業分野と結びついた13コースを設置し、システム開発等に必要な俯瞰的な視野を身につけ、産業界と連携しながら、各々の分野の社会実装の現場の実践的な知識・スキルを学ぶことができます。

コース名	コース内容
1 AI応用コース	多様な社会の問題を解決するために、深層学習をはじめとする機械学習やデータサイエンスの技術が有効である。その社会実装の実例を知り、本コースではAI技術を自在に使って社会の問題を具体的に解決できるAI技術者を育成する。
2 金融・流通コース	金融・流通等でのトランザクションでは、データ改竄の防止や追跡可能性などの信頼性を担保する情報技術が必要となる。本コースでは、金融や流通のDXにおける課題を明らかにし、ブロックチェーン等の技術を利活用できる情報技術者を育成する。
3 ソフトウェア開発 プロセスコース	多様な社会の問題を解決することを対象としたソフトウェア開発において、失敗する開発事例が後を絶たない。具体的な問題を事例として、ソフトウェア開発工程全体を学び、PSP(Personal Software Process)/TSP(Team Software Process)資格をもつソフトウェア設計者・開発者を育成する。
4 画像認識コース	自動運転車両や自律型ロボットなどの次世代の知的情報処理システムが備えるべき自動認識技術を支える基礎技術について、特にカメラセンサを対象とした画像処理・認識技術を学ぶ。
5 ロボティクスシンセシス 導入コース	既存の人工物や事前を解明するために部分に分け、それぞれの法則を求める事で全体を理解しようとする分析(アナリシス)の手法に対して、部分からの統合を主体として考えるのが合成(シンセシス)の考え方である。ロボティクスの技術を例に挙げて、その社会実装に向け、他分野の工学等と共同した講座として俯瞰的視野からの合成法を学ぶ。
6 計算力学エンジニア コース	社会を支える機械を実装する上で、その力学的な振る舞いを俯瞰的に、システム総体として理解することが必要となる。そのための計算力学の社会実装技術を学び、日本機械学会が認定する資格取得を目指す。
7 大規模計算科学： 基礎と実践コース	社会問題を予め想定して、その将来像を想定するには、シミュレーション技術が必須となる。本コースでは、シミュレーション技術の社会実装に関連する幅広い知識とスキルを学び、分野を超えた俯瞰的視野を学ぶ。
8 アントレプレナー シップコース	社会実装する際には、設計したサービスやシステムの先のユーザー視点から、仮説を立て、戦略や代替策を立案するための問題の再定義やデザイン思考などの俯瞰的な視点が重要となる。本コースでは、起業家意識の醸成と起業のために必要な知識・スキルを学ぶ。
9 情報教育支援コース	情報化社会では、誰しもが情報の扱いに関する知識・スキルを必要とするが、現状ではその情報教育のための知識・スキルを備えた指導者が不足している。本コースでは、初等・中等・生涯教育における情報教育のための知識・スキルを学ぶ。
10 生命体工学コース	本コースは、情報工学部に含まれない他の工学分野の学修を通して、俯瞰的な視野を身につけることを目的としている。ここでは、特に生命体を研究対象とした工学分野を学び、生命体そのものが研究対象となり得ることを学ぶ。
11 國際エンジニアリング 共同講義コース	多様で最先端の工学分野を対象として、海外大学と連携した英語による講義・演習を幅広く履修する。本コースを通して、グローバルマインドと高度なコミュニケーション力を修得する。
12 需要創発コース	産業界や社会のもつ課題から、需要を創発・喚起することを通して、解を発見し、その解決までのプロセスを実践するための知識・スキルの実践の場を提供する。問題発見と解決に向けたプロセスを研究対象とし、プロトタイプ、最終的な納品までを行う。
13 マイクロ化技術 実践コース	現代社会の根幹を支える半導体デバイス、集積回路、センサー・マイクロマシン(MEMS)等のマイクロ化技術に関して、総合的に学ぶコースであり、マイクロ化総合技術センターのクリーンルームを利用した集積回路の試作実習も含む。

GEプログラム

グローバル教養教育科目をはじめ、グローバル人材に必要なスキルを修得できるようデザインされています。

演習等名	内容
講究・特別講究及び 実験演習・特別実験演習	講究・特別講究は、学生自らが最新の研究成果の紹介や自己の研究課題の進捗を報告し、参加者と議論を深めることで情報収集能力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める実践の場である。また、実験演習・特別実験演習は、指導教員の指導と助言のもとに、学位論文の執筆に向けて取り組む研究活動全般を包括する授業科目である。
上級語学及び 上級グローバル教養	上級語学は少人数クラスによるきめ細かな指導によって英語の理解力を深めるための講義から構成される。上級グローバル教養は、倫理や知的財産などの情報社会で必須となるリテラシーを高める講義科目から構成される。
GCE実践科目	本学では、大学院生が在学中に海外で語学や研究等で研鑽を積むことを奨励している。この科目は、海外の協定大学との交流の他、留学生との共同作業、国際会議での発表経験等、幅広い活動から構成される。
指導型演習	学部生が卒業研究に取り組むための活動を補助したり、さまざまな専門的知識を身につけるための特定の講義に関連する教材開発を補助するなど、自己の知識と経験に基づいた学部生を指導する観点からの演習に取り組む。

博士前期課程

養成する技術者像

産業界全体において技術開発やシステム開発等に携わり、産業のDXを支え、Society5.0の

新しい社会を駆動する情報技術者

情報工学プログラム

(数理・データサイエンス・AI科目から6単位)

暗号数学特論
数学基礎特論
代数的組合せ論
物理数学概論
電磁気学特論
コンピュテーションナルセキュリティ

最適化アルゴリズム論
ネットワーク解析特論
機械学習特論
動画像処理基礎

統計的データ解析特論
応用線形代数
確率数値解析特論
情報数学特論

社会駆動プログラム

(13コースから1つ選択して6単位)

AI応用・コース

(AIの諸問題・ビッグデータ処理特論・他)

金融・流通・コース

(暗号理論・ファイナンシャルテクノロジー・他)

ソフトウェア開発プロセス・コース

(パーソナルソフトウェアプロセス・他)

画像認識・コース

(画像認識特論・動画像処理特論・他)

ロボティクスシンセシス導入・コース

(最適化理論特論・ロバスト制御特論・他)

計算力学エンジニア・コース

(計算力学特論・CAE特論・他)

大規模計算科学：基礎と実践・コース

(並列コンピューティング特論・他)

アントレプレナーシップ・コース

(アントレプレナーシップ入門・他)

情報教育支援・コース

(学習工学特論・支援士実習・他)

生命体工学・コース

(人間知能システム概論・他)

国際エンジニアリング共同講義・コース

(国際エンジニアリング共同講義・他)

需要創発・コース

(大学院実践演習・他)

マイクロ化技術実践・コース

(システムLSL設計論・他)

専門深化プログラム

(13コースから1つ選択して演習を含む11単位)

知能情報工学専門分野
データ科学 /
人工知能 /
メディア情報学・コース科目群

- 圧縮情報処理特論
- 離散アルゴリズム特論
- イメージ解析特論
- 統計的機械学習特論
- 位相的データ解析特論
- 検索アルゴリズム論
- 人工知能特論
- 自然言語処理特論
- 算法表現特論
- 思考モデルリング
- コンピュテーションナルフォトグラフィ
- 仮想空間論
- 画像認識特論
- マルチメディア工学特論
- コンピュータアニメーション特論
- 高機能メディア工学特論
- 知能情報演習
- 確率的最適化理論
- 人間情報システム特論
- 時系列データ解析特論
- ビジョンと言語の深層学習特論

情報・通信工学専門分野
ソフトウェアデザイン /
情報通信ネットワーク /
コンピュータ工学・コース科目群

- プロジェクトマネジメント演習
- ビジネス・人・社会のモデリング
- ソフトウェアアーキテクチャ
- 関数プログラミング
- プログラミング言語と処理系特論
- クラウドコンピューティング
- デジタル通信方式
- 無線モバイルネットワーク
- ネットワークデザイン
- ネットワークマネージメント
- ハードウェア・ソフトウェア協調設計
- ディベンダブルシステム
- LSI バックエンド設計
- 高信頼 LSI 設計
- 組込みシステム設計
- 光信号処理
- ソフトコンピューティング
- 情報・通信プロジェクト演習
- ディベンダブル AI アクセラレータ
- ハードウェア イン オタナスマ システム
- システム LSI 設計論
- マイクロシステム特論

知的システム工学専門分野
ロボティクス /
システム制御 /
先進機械・コース科目群

- ロボット工学総合演習
- ロボティクス設計特論
- システムデザイン特論
- 群ロボット工学特論
- ロボットセンサ処理特論
- 知能ロボット特論
- 知的ロボット制御特論
- 動画像処理特論
- 現代制御論特論
- システム制御演習
- ロバスト安定論特論
- 制御系 CAD 特論
- ロバスト制御特論
- 非線形システム特論
- 最適化理論特論
- 応用運動学特論
- エネルギ原理と有限要素法特論
- 流体力学特論
- 生産加工学特論
- トライポロジー特論
- 大学院実践演習
- マイクロ流体工学特論
- マイクロデバイス・システム特論
- ナノマイクロエンジニアリング特論
- メカトロシステム特論
- 光応用ナノスケール計測特論
- 運動とメカニズム
- ヒューマン・インターフェース
- CAE 特論
- バイオデバイス特論
- 自動車製造デザイン情報処理特論
- 情報機械実践演習
- システム回帰分析特論

物理情報工学専門分野
電子物理 /
生物物理・コース科目群

- 超伝導応用特論
- 電子物性計算科学特論
- 磁気記録工学特論
- 機能性材料特論
- ナノデバイス特論
- 有機エレクトロニクス特論
- 光波工学特論
- 光情報工学特論
- 非線形現象特論
- 情報物性特論
- マイクロ・ナノシステム技術特論
- 構造生物学特論
- バイオ・ソフトマター特論
- 生体機能情報特論
- 医用化学工学特論
- 定量生物学特論
- デジタル画像処理特論
- 生命物理化学特論
- システムバイオロジー特論
- 生命情報工学特論
- バイオイメージング特論
- 医用情報工学特論
- 医用化学工学特論
- 医薬情報学特論
- 定量生物学特論
- 創薬ケモインフォマティクス特論
- 細胞情報伝達演習
- バイオインフォマティクス演習
- 合成生物学特論
- システム薬理学特論

生命化学情報工学専門分野
分子生命工学 /
医用生命工学・コース科目群

- 生命化学特論
- 生命物理化学特論
- 分子細胞生物学特論
- ゲノム生物学特論
- 電磁波化学特論
- マイクロバイオーム特論
- システム神経行動学特論
- 生体機能情報特論
- 構造生物学特論
- 脳科学特論
- コンピューションナルゲノミクス特論
- システムバイオロジー特論
- 生命情報工学特論
- バイオイメージング特論
- 医用情報工学特論
- 医用化学工学特論
- 医薬情報学特論
- 定量生物学特論
- 創薬ケモインフォマティクス特論
- 細胞情報伝達演習
- バイオインフォマティクス演習
- 合成生物学特論
- システム薬理学特論

GEプログラム

10単位 : ● 講究&実験演習 (4単位) ● 上級語学&上級グローバル教養&海外協働演習 (4単位)

● 指導型演習 (2単位)

基礎科目

+

対象分野科目

情報工学府 研究者紹介

Researchers

情報工学府の研究者（一部）をご紹介します。
研究内容の詳細は以下からもご確認いただけます。



<https://www.kyutech.ac.jp/kyutechlab>

情報・通信工学専門分野

身近なネットワークを賢くすることで地域の暮らしをよりよくしたい
現代では多くの人がインターネットを使って情報を取得し、生活に役立てています。更に近年は様々なモノがインターネットにつながる IoT も身近になってきて、色々な IoT 機器から送信される多様なデータを私たちに役立つものとして活用することができるようになれば、もっと私たちの生活の質を向上できるはずです。

塚本 和也 TSUKAMOTO Kazuya
情報工学研究院
情報・通信工学研究系
Job Title 教授

情報・通信工学専門分野

日々進歩するネット社会で私たちの「情報」を守る！
最近「IoT」という言葉をよく耳にするところ、様々なモノがインターネットにつながり、情報をやりとりする時代です。情報を守る暗号技術が、ますます重要になっています。

荒木 俊輔 ARAKI Shunsuke
情報工学研究院
情報・通信工学研究系
Job Title 准教授

知能情報工学専門分野

人の目を超えたロボットの「目」を創る
人間は、一枚の写真を見たときに、写っている物はもちろん、その形や色・ツヤなども瞬時に認識することができます。そんな人間の視覚機能をコンピュータで実現するのがコンピュータビジョン。ロボットの「目」を実現するための研究です。

岡部 孝弘 OKABE Takahiro
情報工学研究院
知能情報工学研究系
Job Title 教授

知能情報工学専門分野

「宇宙天気予報」で安全・安心な宇宙旅行を
「宇宙天気」とは太陽の活動などに起因した宇宙空間や地上の電磁環境変動やプラズマ現象のことです。私たちの日常生活にも強く関係しています。社会基盤として当たり前のように利用されている船舶や航空機、自動車や人工衛星などの安定した航行は、実は宇宙天気の影響によって安全性が大きく左右されます。宇宙天気のビッグデータを解析することで、安全・安心な電波伝搬通信技術の確立を目指した研究をおこなっています。

藤本 晶子 FUJIMOTO Akiko
情報工学研究院
知能情報工学研究系
Job Title 准教授

知的システム工学専門分野

知的な乗り物と人間が共に暮らす社会をつくる
情報技術の進歩のおかげで、情報を一度に、大量に運ぶことができるようになりました。しかし、物を動かすにはまだ人間の操作が必要な状況です。これからは、情報技術が発展することで、物を運ぶ技術が発展していきます。

榎田 修一 ENOKIDA Shuichi
情報工学研究院
知的システム工学研究系
Job Title 教授

進路状況

Career



就職に強い九工大、その理由

特色ある教育と就職サポートの両輪で、
毎年高い就職率・就職実績を誇っています。

<https://www.kyutech.ac.jp/career/recruit-reason.html>



博士前期課程

令和 3 年度に情報工学府博士前期課程を修了した学生の中で、就職を希望した学生は全員、就職することができました。
主な就職先は次のとおりです。

就職先	就職先
1 アイシン	6 ソニーセミコンダクタマニファクチャリング
2 NECソリューションイノベータ	7 ソフトバンク
3 旭化成	8 パナソニック
4 九州NSソリューションズ	9 日立製作所
5 ソニーLSIデザイン	10 富士通

※上記には含んでおりませんが、情報工学府博士後期課程に進学した学生もいます。

博士後期課程

令和 3 年度に情報工学府博士後期課程を修了した学生の中で、就職を希望した学生は全員、就職することができました。
主な就職先は次のとおりです。

就職先
1 北九州工業高等専門学校
2 九州大学
3 日本電信電話(NTT)
4 楽天(エンジニア職)
5 ルネサスエレクトロニクス

九州工業大学大学院 情報工学府入学までの流れ

*Application Procedures for Admission to
Graduate School of Computer Science and Systems Engineering of Kyutech*

1 希望する研究分野の教員を見つける

Finding a potential supervisor



九州工業大学ホームページなどを見て、自分が指導を受けたい研究分野の教員を探します。

Search a potential supervisor who conducts research in a specific field you are interested in on the Kyutech website.

2 教員にコンタクトをとる

Contacting the potential supervisor



教員又は事務部にメール連絡し、研究室に受け入れてもらえるかどうか打診します。メールには、学歴や自身の研究テーマも記載してください。

Contact the supervisor or the university admissions office by e-mail to discuss opportunities for you to participate in the laboratory. In your e-mail, please include your academic backgrounds and your research topics.

3 教員との面談

Arranging a meeting with the potential supervisor



出願する前に、希望する教員と面談などにより十分に意思疎通を行ってください。学会の場で会ったり、インターネット面談を行ったりすることもあります。

Before applying for admission to Kyutech, please discuss fully with the supervisor to see if your research topics correspond to the supervisory competences. You can meet your potential supervisor at academic conferences or, in some cases, you may have an interview with the supervisor on the Internet.

4 インターネットを利用した出願手続き

Application procedure using the Internet

出願手続き Application procedure

①インターネット出願登録

②入学検定料(30,000円)の支払い※(日本政府)国費留学生は検定料不要

③募集要項に記載の提出書類(①で印刷したものとその他の必要書類)を出願期間内に郵送又は持参

◆インターネット出願登録期間

第1次募集(4月・10月入学者) 5月上旬

第2次募集(4月入学者) 1月上旬

※入学検定料の支払い期間も同様

※インターネット出願登録は出願期間に先立って事前に登録が可能

◆出願期間(提出書類受付期間)

第1次募集(4月・10月入学者) 5月下旬

第2次募集(4月入学者) 1月下旬

▼インターネット出願登録の手順は、下記 URL により必ずご確認ください。Please check the link below for the online registration and the flowchart of application procedure.

インターネット出願登録サイト Online registration website <https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-internet-application.html>

\Check!/ Check!

| 募集要項は九州工業大学のホームページから閲覧できます。

Application guidelines are available on the Kyutech website.

□ <https://www.kyutech.ac.jp>



5 受験

Taking the admissions test



or



九州工業大学飯塚キャンパスで受験するか、インターネット面接で受験します。受験の方法は、左記 2・3 で先生に相談してください。(インターネット面接は、原則として社会人及び外国に在住する外国人が対象で、協議のうえ、実施することができます。)

You need to take the admissions test at the Kyutech IIZUKA Campus or have an online interview. Please discuss with your prospective supervisor (cf. 2, 3) the best possible way to take the test.

6 合格者発表

Announcement of test results

合格者の発表は本学ホームページで閲覧可能です。

The test results will be announced on the Kyutech website.

7 入学手続

Admissions Procedure

入学手続き Admission procedure



入学金 282,000円。(他に、授業料 535,800円/年)ただし、(日本政府)国費留学生は納入不要です。入学料と授業料は、全額または一部を免除する制度があります。希望者は入学時に申請が必要です。

ただし、入試成績・在学中の成績、経済状況によっては免除が認められないこともあります。

Admission Fee: 282,000yen (Apart from this, you need to pay tuition fees of 535,800 yen per year.)

* Japanese Government Scholarship Students do not need to pay the admission fee nor the tuition fees. All or part of the admission fee and of the tuition fees can be waived upon application.

However, application for fee exemptions may sometimes be disapproved due to your admissions test results, poor academic achievements and personal finance.

8 入国ビザ取得手続 留学生のみ

Applying for a visa



日本に入国する前に、入国ビザを取得する必要があります。手続は、大学事務部がサポートします。

Before landing in Japan, you need to obtain a visa. The university admissions office will assist with your visa application.

9 入学

Enrollment in Kyutech

すべての手続きが終わったら、本学へ入学します。

After completing all the above procedures, you will be enrolled at Kyutech

九州工業大学大学院情報工学府における 経済支援制度

Financial support



制度概要			
学費免除・猶予	制度	対象	制度概要
	入学料免除	新入生	経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者を対象として、選考により、入学料の全額または一部の納付を免除します。 申請時期 入学手続時
	入学料徴収猶予	新入生	経済的理由により納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者を対象として、選考により、入学料の徴収を一定期間猶予します。 申請時期 入学手続時
日本学生支援機構 奨学生	授業料免除	全学生	経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者を対象として、選考により、授業料の全額または一部の納付を免除します。 申請時期 新入生は入学手続時、在学生は半期ごと(前期分3月・後期分7月)
奨学金	日本学生支援機構 奨学生	全学生	<p>人物・学業ともに優秀かつ健康であり、学資の支弁が著しく困難な学生に対し、大学の推薦及び日本学生支援機構の選考を経て奨学生が貸与されます。</p> <p>在学中に貸与を希望する場合、4月上旬頃に申請手続きを行います。(在学採用)</p> <p>また、学部卒業後すぐに大学院に進学する学生に対しては、進学前に奨学生の申請手続を済ませておく予約採用制度もあります。</p> <p>なお、第一種奨学生については、大学院在籍中に特に優れた業績を挙げたと認められた場合、奨学生の全額または半額について返還の免除が受けられる場合があります。(第一種奨学生返還免除制度)</p> <p>第一種(無利子) 博士前期課程 50,000円または88,000円 博士後期課程 80,000円または122,000円</p> <p>第二種(有利子) 5万円・8万円・10万円・13万円・15万円 の中から選択</p> <p>申請時期 在学採用は4月上旬、予約採用は入試合格者発表後</p>
			
			<p>本学で令和4年度に取り扱った主な育英事業団体は次のとおりです。一部、給付型の奨学生もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●旭硝子奨学会 ●大阪造船所奨学会 ●金澤記念育英財団 ●川村育英会 ●篠原育英会 ●帝人奨学会 ●中部奨学会 ●ナガワひまわり財団 ●日揮・実吉奨学会 ●日鉄鉱業奨学会 ●長谷川財団 ●原田記念財団 ●ユニ・チャーム共振財団 ●吉田育英会 ●吉本章治奨学会
外部の団体が 募集する奨学生	私費外国人 留学生		<p>入学前に海外から出願し、渡日せずに申請できる「留学生受入れ促進プログラム予約制度」があります。毎年、給付要件を満たすものを対象として、大学の推薦及び日本学生支援機構の選考を経て奨学生が給付されます。</p> <p>給付金額 月額 48,000円 申請時期 ○春入学：11月頃 ○秋入学：7月頃 ○春入学：12ヶ月 ○秋入学：6ヶ月</p>
制度	対象	制度概要	
学会参加旅費等	各教育プログラムによる経済支援	全学生	本学独自の教育プログラムのうち、補助金、国や地方公共団体からの支援、民間企業等外部の団体からの支援、大学独自の支援等により、教材費、国内外への旅費、その他の経済支援を行っているものが多数あります。
	学会発表等に関する奨学生	全学生	国外で開催される国際的な学術研究機関、団体が主催する学会又は研究会等で研究成果の発表等を行う際の費用の一部を支援することにより、国際感覚の涵養及び修学・研究意欲の向上を図る。
	奨学生	全学生	<p>奨学生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルエンジニア養成コースを履修している場合 一人一回につき 40,000円～120,000円 ※地域により異なる。 在学中に3回まで支給可能。 2. その他の学生の場合 一人一回につき 30,000円～100,000円 ※地域により異なる。 在学中に5回まで支給可能。
雇用制度	日本学術振興会特別研究員	博士後期課程学生	日本学術振興会による、優れた若手研究者に研究に専念する機会を与えることによって我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資すること目的として、大学院博士後期課程在学者に研究奨励金を支援する制度です。
	リサーチ・アシスタント(RA)	博士後期課程学生	教育的配慮の下に、研究補助者として本学が行う研究プロジェクト等に参画させ、これに対する給与を支給して経済的支援を行う制度で、月額60,000円を上限に最長9ヶ月支給します。 ※但し、国費留学生又はそれに準じる学生は除きます。
	ティーチング・アシスタント(TA)	全学生	教育的配慮の下に教育補助業務に従事させ、これに対する給与を支給して経済支援を行う制度です。
住居	スチューデント・レジデンス	全学生	<p>日本人学生と外国人留学生との混住寮で、1棟20戸、1戸あたり3部屋となっており、各戸にはキッチン、シャワールーム、トイレ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、テーブル、エアコン等を備え、各部屋にはベッド、机、クローゼット、照明器具、エアコン等を備えています。</p> <p>入居期間は原則として1年間です。(申請により延長することも可能です)</p> <p>寄宿料(月額) 15,000円(食費・生活費等は含まない) ※留学生は7,000円减免されることがあります。</p> <p>光熱水料(月額) 約5,000円～10,000円程度</p>
	国際交流会館	留学生	<p>外国人留学生や外国人研究者の居住施設で、各部屋にはキッチン、冷蔵庫、ベッドやその他の家具・調度品を備え、他に共通施設として研修室、談話ホール、洗濯室等があります。</p> <p>入居期間は原則として6ヶ月以内です。</p> <p>寄宿料(月額) ○単身室 5,900円 ○夫婦室 9,500円 ○家族室 14,200円 (食費・生活費等は含まない)</p> <p>光熱水料(月額) 約5,000円～10,000円程度</p>
<p> 情報工学府における経済的支援についての情報は以下からもご確認いただけます。</p>			
<p>○ 学費免除・猶予</p>			<p>https://www.iizuka.kyutech.ac.jp/faculty/tuition</p>
<p>○ 日本学生支援機構奨学生</p>			<p>https://www.iizuka.kyutech.ac.jp/faculty/jasso</p>
<p>○ その他の奨学生</p>			<p>https://www.kyutech.ac.jp/campuslife/scholarship.html#02</p>